ラムネ・他四編

萩原朔太郎

青空文庫

ラムネ

ラムネといふもの、不思議になつかしく愉快なものだ。夏の氷屋などでは、板に丸い穴をあけて、そこに幾つとなく、ラムネを逆さにして立てて居る。それがいかにも、瓦斯（ガス）のすさまじい爆音を感じさせる。僕の或る友人は、ラムネを食つて腹が張つたと言つた。あれはたしかに瓦斯（ガス）で腹を充満させる。

だがこの頃、ラムネといふものを久しく飲まない。僕の子供の時には、まだシヤンパンサイダといふものがなく、主としてラムネを飲用した。この頃では、もうラムネが古風なものになり、俳句の風流な季題にさへもなつてしまつた。それで僕が上野に行くと、あの竹の臺の休み茶屋でラムネを飲む。それがいかにも、僕を田舎者らしく感じさせ、世間を離れた空の上で、旗のへんぽんたるものを感じさせる。僕はラムネを飲むと、ふしぎに故郷のことを聯想するから。

アイスクリーム

帝劇にバンドマン歌劇が來た時、二階も棧敷も、着飾つた西洋人で一杯だつた。女たちは黒

い毛皮の外套を着て、棧敷の背後から這入つて來た。連れの男がそれを脱ぐと、皆眞白な肌を出した。半裸體の彫像だつた。

この裸體の人魚たちが、幕間にぞろぞろと廊下を歩いた。白皙の肌の匂ひと、香水の匂ひとでぎつちりだつた。ところどころに、五六人の女が集まり、小さな群團をつくつてゐた。一人がアイスクリームのグラスを持ち、皆がそれを少し宛、指につまんで喰べてるのである。その女たちの指には、薄い鹿皮の手袋がはめてあつた。

僕は始めて知つた。アイスクリームといふものは、鹿皮の手袋をした上から、指先でつまんで食ふものだといふことを——。女たちは嬉々としてしやべつてゐた。

ソーダ水

ソーダ水に麥稈（むぎわら）の管をつけて吸ふこと、同じやうに西洋文明の趣味に屬する。あれは巴里の珈琲店で、若い女と氣の輕い話をしつつ、靜かに時間を樂しんで吸ふべきものだ。日本の慌たゞしき生活と、東京の雜駁なる市街の店で、いかにあの麥稈は不調和なるかな！　僕は第一にソーダ水から、あの『腹の立つもの』を取り捨ててしまふ。

玉露水

昔は玉露水といふのがあつた。厚い錫の茶碗の中に、汲み立ての冷水を盛つて飲むのである。いつか遠い昔のことだ。死んだ祖母に連れられて伊香保から榛名を越えた。山の中腹の休み茶屋で、砂糖の少し入つた玉露水を飲んだ。

玉露水は、今の氷水よりもずつとつめたく、清水のやうに澄みきつてゐる。

麥酒

瀧を見ながら麥酒が飲みたい。

青空文庫情報

底本：「萩原朔太郎全集　第八巻」筑摩書房
　1976（昭和51）年7月25日初版発行
底本の親本：「令女界　第七巻第八號」
　1928（昭和3）年8月号
初出：「令女界　第七巻第八號」
　1928（昭和3）年8月号
入力：岡村和彦
校正：きりんの手紙
2020年4月28日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（https://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

ラムネ・他四編

萩原朔太郎

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/